

カップリング・インターンシップ(CIS)2025 活動報告(アメリカ)

グローバルダイバーシティ&インクルージョン推進室

准教授 勝又 美穂子

8月10日～8月20日(移動含む)で、アメリカオハイオ州デイトン空港から車で15分のテイクシティに位置するDAIHEN Inc.にて2回目となるアメリカでのカップリング・インターンシップ(CIS)を行いました。参加学生は、大阪大学工学部1名、工学研究科1名、薬学部1名、外国語学部1名、オハイオ州立大学(OSU)工学研究科2名、人文学部2名、の計8名でした。

CIS活動開始1日目には事前研修として両大學生より両国の紹介、日本企業の紹介、コミュニケーションの基礎、CIS課題へのチーム協議などを行いました。国紹介や日本企業紹介では、阪大4名の学生がそれぞれ分担し、充実した内容のプレゼンテーションを行いました。8月12日からの4日間はDAIHEN Inc.にて、企業紹介、各部署の取り組みなどを学ぶと共に、役割や役職の異なる多くの皆様とのインタビューを通して学習しました。また、溶接ロボットの操作やマニュアル溶接の体験も行い、溶接技術についても知見を深めました。参加学生は、企業から提示された実習テーマ“The Future of Work in Manufacturing - Skills, Culture & Technology”に関して労働人口の減少、文化的差異、AIによる代替可能性、関税問題、社内や顧客とのコミュニケーション、変化する製造業における市場等、様々な視点から社員の皆様に質問し、勉強しました。企業研修最終日には同社がパートナーとして迎えたForce Design Inc.(システムインテグレーター)を訪問し、同社

の製造業における新たなビジネス展開を学びました。その後、州都コロンバスに移動途中では、米国最大の空軍博物館に立ち寄り、航空機の歴史についても学ぶ機会がありました。

8月18日(月)には、オハイオ州立大学にて、最終報告会を行い、DAIHEN Inc. ビジネス開発部長 Mr. Swann 及びCISの調整から運営までご担当頂いた Mr. Kooro、そしてOSUからは工学部 Prof. Wei、人文学部 East Asian Languages and Literatures より、学科長 Prof. Seiber、Assoc. Prof. Fukumori 他、国際部、マーケティング部などから合計9名が参加されました。日本側は深夜の時間帯でしたが、オンラインでは本学からも学生の指導教官を始め5名を超える参加者が視聴されました。学生達は2チームに分かれ、日米の文化比較、米国市場における同社の強み、ブランド認知向上のためのアイデア等、様々な考察とその結果を発表しました。

どの国でも基本は英語で進行するCISですが、アメリカでのCISはネイティブ圏という緊張感があります。そんな中、OSUの学生達の温かい支援や異文化理解への真摯な姿勢もあり、参加した本学学生も物怖じせず、積極的に取り組むことが出来ました。慣れないチームワークでも、仲間への尊重と気遣いを忘れず取り組んだ学生達8名の姿勢は素晴らしいものでした。

改めて、温かく受け入れていただきましたDAIHEN Inc.の皆様、そして連携頂いたOSUの皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。

(写真次ページに続く)



最終報告会後の集合写真



企業でのインタビューの様子



溶接実習後に



オハイオ州立大学キャンパスにて